

インテリア科作品販売の包装紙・シールデザイン

動機

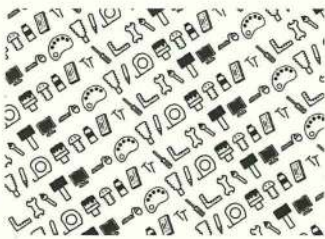
学校にインテリア科でしか貢献できないことは何なのかと考えた際、工業クラブの作品販売時に使う包装紙とシールがないことを知り、そのデザインを製作しようと考えた。
インテリア科の特徴をデザインに入れ、販売時にインテリア科のことを知ってもらうため。

制作過程

～包装紙～

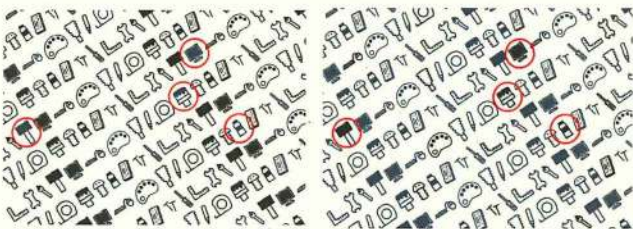
①初期案

- ・インテリア科から連想するものを規則的に並べた
- ・白黒でもわかりやすいものにした



②第二案

- ・アクセントになる色を付けてみた
- ・左は黒ベースに紺、右は紺ベースに黒



③最終案

- ・全て紺色にした
- ・色合いが柔らかくなり背景の白とも調和している



まとめ

今後も長く使ってもらえるよう、更にバリエーションを増やし、様々な包装紙とシールデザインを製作したい。最終的には納得のいくデザインに仕上げることができたが、あまりデザイン案が出せなかったため、再度挑戦する場合はデザイン案を沢山だしたい。

包装紙とシールのデザインについて二人でしっかりと話し合い、色合いや文字の位置、サイズなどの統一感を出すことができた。

～シール～

①初期案

- ・モノづくりをしている生徒のキャラクターを考えた
- ・学校名、学科等の必要な情報を記載した
- ・キャラクターを目立たせるために、背景は無地かパステルカラーにした



②第二案

- ・背景を木目状にすることでモノづくりを連想させた
- ・文字の幅を広くし、情報も見やすいように工夫した
- ・包装紙に貼ったときに、シールが目立たず、乱雑になってしまった



③最終案

- ・背景をパステルカラーにし、キャラクターや文字が見やすくなるようにした
- ・包装紙とよく馴染むデザインにすることができた



「インテリア科作品販売の包装紙・シールデザイン」

2022年度 長野県木曾青峰高等学校 インテリア科

古澤心 水本くるみ

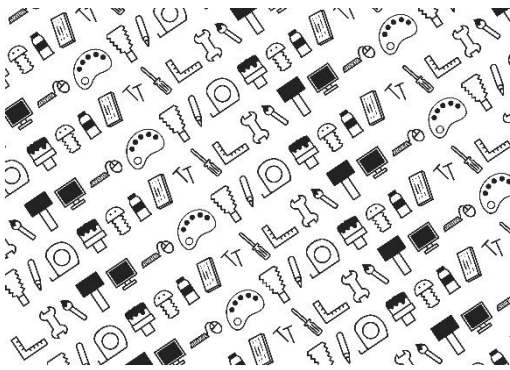
1. はじめに

インテリア科には工業クラブという特別なクラブがあります。工業クラブは毎年、県内で開催されるイベントに参加し、クラブ内で制作した作品を販売しています。その販売に伴いインテリア科の知名度を広げる為に包装紙とシールをデザインしました。

色は黒や紺色の落ち着いた色に決め、その中で部分的に色を付け（デザイン案1・2）、それらを反転させてみました。些細な変化に見えますが、印刷してみると大きく違いました。紺色を少し明るくしたり、少し薄くしたりなど、様々なパターンを作りました。（デザイン案1・2）

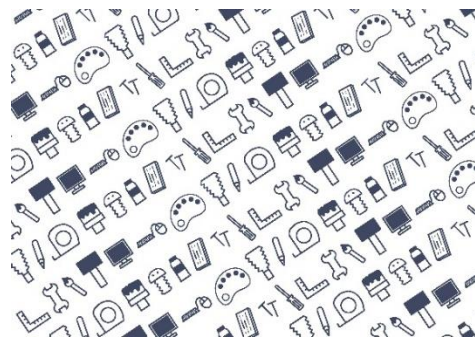
2. 包装用紙製作過程

初期案



インテリア科で使用される道具や材料などをイラスト化した素材を規則的に並べてみました。イラスト化した素材の色を黒色にし、ここから様々な色に変えてみたりし、デザイン案を出していきました。

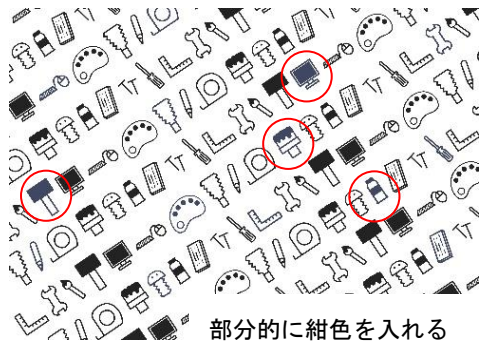
最終案



包装紙の最終案は紺色で統一しサイズはA3、A4、B4、B5の4種類にしました。

シールでも紺色を使うので包装紙の紺色と合わせました。デザイン案2で部分的に黒色を入れるのは、まとまりがないように感じたのと、実際包装してみた時にあまり目立たないので、包装紙とシールを統一するために紺色をベースとしたデザインを最終案としました。

デザイン案1



部分的に紺色を入れる

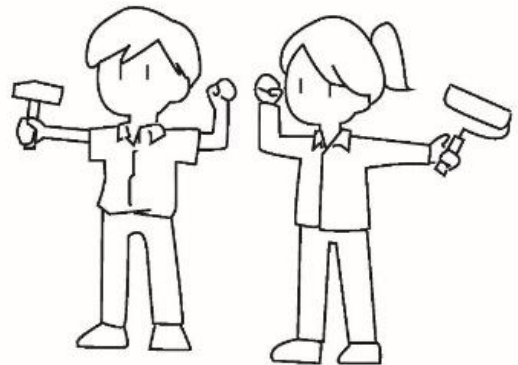
デザイン案2



部分的に黒色を入れる

3. シール製作過程

初期案



高校生がものづくりをしているキャラクターをイメージして男女別で考えました。男女別のキャラクターをもとに、シール案を考えていきましたが、キャラクターにメリハリをつけるために、色をつけ加えました。

デザイン案1



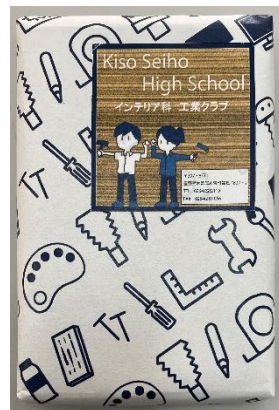
シール1



シール2

シールには学校名、学科等の必要な情報を記載していきました。また、それぞれのキャラクターを目立たせたかったので、無地（シール1）やパステルカラー（シール2）を背景にしました。改善点としては、全体的に文字が詰まっていること、シンプルで少し物足りないことが挙げられます。

デザイン案2



シールの背景を木目状にし全体を引き締め、ものづくりを連想させるようなデザインにしました。デザイン案1で出た改善案をもとに、Kiso Seicho High School、インテリア科、工業クラブの文字の幅を広くし、学校情報がより見やすくするように背面に白色を付け加えました。

改善する点として、学校情報の文字が小さく読みにくいこと、実際にシールと包装紙を組み合わせたときに、シールが目立たず、乱雑になってしまったことが挙げられます。

最終案



色々試行錯誤を行い、最終案はデザイン案1の黄色いパステルカラー（シール2）のデザインをもとにデザインしました。デザイン案1のシール2は文字や男女のキャラクターが詰まっているので、文字やキャラクターのバランスをとるために、シールの大きさを一回り大きくしました。

また、デザイン案2で学校情報を見やすくするために背面に白色を入れたものを最終案のデザインにも取り入れようとしたのですが、白色が目立ってしまうので地の色のパステルカラーを活用し学校名、インテリア科の色は統一し住所のフォントサイズ、色も変え全体にメリハリをつけデザインしました。

4. 考察・まとめ

イベントを通じて木曾青峰高校インテリア科を多くの人に知ってもらうツールをどうするか考え形にしていくのは、とても難しいと感じました。包装紙やシールをデザインするにあたり、工業クラブで長い間使ってもらえるにと、どの世代の方々が手にとっても親しみやすいデザインにできたと思いました。

工業クラブで使用するシールや包装紙のデザインは個々で作り上げる作品ではないので、色合いや文字の位置、シールや包装紙のサイズなど、しっかりと話し合っデザインにすることができました。